



齋藤 雄吉	石田 義一	鍋島 敬吾	吉野 敬之	小島 武真	藤波 新吾	加藤 福雄	宮本 守恵
常 純一	深 文一	瀨 富男	加藤 富男	遠藤 三郎	上野 金三郎	中尾 文策	梶川 從一
菅 登美子	池 登美子	能武男	安田 富彦	岡 富彦	池田 富彦	宇野 芳郎	青木 藤郎
菊 登美子	池 登美子	能武男	安田 富彦	岡 富彦	池田 富彦	宇野 芳郎	青木 藤郎
西川 政一	金子 光一	近藤 匡一	藤 匡一	池田 光一	宇野 光一	青木 光一	松田 光一
合計四十三名							

斎藤 雄吉	石田 義一	鍋島 敬吾	吉野 敬之	小島 武真	藤波 新吾	加藤 福雄	宮本 守恵
菅 登美子	池 登美子	能武男	安田 富彦	岡 富彦	池田 富彦	宇野 芳郎	青木 藤郎
西川 政一	金子 光一	近藤 匡一	藤 匡一	池田 光一	宇野 光一	青木 光一	松田 光一
合計四十三名							

プログラムの順序

- 一、開会の辞
- 二、会長挨拶
- 三、支会長挨拶
- 四、祝詞
- 五、会務報告
- 六、新年度方針
- 七、新年の挨拶
- 八、音楽
- 九、スピーチ
- 十、閉会の辞

司会 榊崎幹事
進行 榊崎幹事
高畑会長
西川支会長
山崎支会長
小倉幹事
竹下幹事
有上 志
柳田幹事
以上

回顧五十周年を飾る辰巳会全国大会

晴天の霹靂とも云うべき運命の日から数え五十年の星霜を経た。この間臥薪嘗胆、先輩の遺業に拍車をかけてつづけた努力の甲斐は見事大成、今日飛ぶ鳥も落とす勢いに各関連会社競い合い悔なく産業報国の実を呈したことは誠に御同慶に堪えない。

去る五月十二日(木)好天に恵まれ午後一時より国立京都国際会館D会議室に於いて、回顧五十周年を記念としての全国大会いと盛大に催された。出席人員二十二名、この日は遠くは北海道、東京、中部、阪神、四国、九州からの面々、午前十一時半頃には三台の貸切バスにてどつと玄関に流れ込んで来た。近代建築美の雄大さに圧倒されながら受付から諸手続を済まし順序よく「かねたつ」大暖簾の垂れているD会議場へと列は静かに続いた。

十三時の定刻嵯峨崎幹事司会の火蓋をマイクの前に切った。プログラムの順序と

様の保存されていたお家様の御写真、兵庫倉庫で輸入した大豆の摺別を行っていた古い写真もまた一同に廻され時の経つのも忘れる。

本年四月は鈴木商店が昭和二年に解散してから五十周年に当たるので坂本、斎藤両幹事その他の提案で東京支部でも何か記念大会を開催しようではないかとの発言あり。満場異議なく賛同した。後貞広寿一氏の発声でたつみ会の万歳を三唱和気霽々の裡に散会したのは二時すぎであった。

幹事 加藤福雄記

例年の通り一月二十五日正午から築地スエヒロで新年会を開催した。集まるもの下記四十二名。西川政一支部長は人間ドック入院中なので暫くの時間を御愛愛の上出席された。

会には斎藤幹事名司会のもとに順調に進行する。先ず西川支部長のユーモラスな新年の祝詞に始まり、たつみ会長寿番付の横綱九十四歳で嬰鑠とした田子富彦氏の金子直吉翁と田宮嘉右衛門翁との間に立つて輪旋に努めた話や長寿の秘訣は歩くこと、また私は毎週火木の両日は神戸製鋼の顧問室に出勤して人々に接し、いろいろ対話をするそれが健康保持に叶うのかも知れないなど我々後輩にとつて示唆に富むお話があった。続いて金子翁二男金子武蔵氏が幼少の頃神戸市雲井通に住って田宮様も近所に住まわれていた。田宮夫人が買物の豆腐を掲げて帰られるお姿を拝見したその印象が今でも目に残っていて昔なつかしいなど。次は鈴木丸衛氏が米寿を迎えられ神戸から安東浄氏が預って来た銀盃を西川支部長から鈴木氏に渡され一同大拍手。同氏から丁寧な謝辞があり、次のような興味ある詩を

土を賑わしてあります。就きましては本会でもこの半世紀を顧みて在りし日を思い起し余生への糧ともなるような催しをしたいものと考えています。

従って会場も第一回全国大会京都府有明荘に負けぬ場所をと目下検討中でありますので具体化しましたら御案内状を差上げますから是非御参会下さい。

本年米寿並びに喜寿に当らせられる芳名を申しますと、米寿には高教一、鈴木丸衛の両氏、喜寿の方には、西川作蔵、富田貴代子、岡田猪太郎、隅田 栄、小島輝次、突永清人、鳥居規之、富屋五郎、松田大介の九氏には夫れぞれ銀盃、大杯をお贈りしました。銀盃の高教一氏並びに大杯の松田大介氏からは御鄭重なる御内祝の御寄贈がありました誠に有難う御座いました。

尚、以上の他に本年九十才(卒寿)を迎えられた六名の方を御紹介申し上げます。

寺崎栄一郎、石田了三、柴喜代二、幸松文太、小野三郎、岡田長之助の諸氏、本当に御長寿お目出度う存じます。

次に「たつみ」誌二十六号掲載の年賀広告であります。編集の手違いで幹事の方の大部分が掲載

司会の進行にプログラムも選ばれたところで庭園にてこの日の人垣の記念写真を撮影した。緑蔭が囲まれた全員の貌を染めて頬笑しい。長時間の椅子席から解放されたかのようにスワンの泳げる池に向い大きく背伸のひと時があった。

漸くにして宴の準備が出来たところで合図に従い宴会場に足を早める。入口近くに京の風物、けなげなる小原女の乙女二十名整列してわれ／＼の接待役に出現した。宴席は特に趣向を凝らし立食風の饗宴となる。各卓は和洋の料理数取り合わせ、皿には山海の珍味が盛り込まれた。眺めた一同の食欲は増すばかり、永井幸太郎翁の音頭で乾盃が活発に挙げられ、卓は御互い飲談の内に崩れてゆく。アルコールの方も餘が次第に抜かれては喜色満面、鈴木時代の童顔に一同戻ったことが懐かしい。

宴半にして太田錫工鈴木治雄氏より会員への激励の祝辞があった。騒然たる和氣藹々のシーンは何時果てるともなく宝池辺から吹き流れてくる若葉風が時速を惜しむわれらの肩を叩いているようだった。十五時を廻ったところで柳田幹事の閉会の辞が放たれた。「海鳴り山鳴りを越えつばくろ来る」の自

川口 一秀	高畑 誠一	高畑 千真	高畑 千彦	高畑 千吉	高畑 千一	高畑 千二	高畑 千三	高畑 千四	高畑 千五	高畑 千六	高畑 千七	高畑 千八	高畑 千九	高畑 千十	高畑 千十一	高畑 千十二	高畑 千十三	高畑 千十四	高畑 千十五	高畑 千十六	高畑 千十七	高畑 千十八	高畑 千十九	高畑 千二十
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

暗誦せられ一同の感銘を深めた。米寿の詩 鈴木丸衛

昔人生五十年
今われこし米の寿
国に天皇山は富士
焚くほどは風がもてる落葉かな
夕ざりければ老妻と
杯あげる太平山(郷里秋田の酒)
極楽をいづこの果てと思ひきや
なんと我家の八畳間
百でお迎え来ようとも
わしはいやじやと
おことわり

続いて富屋五郎氏が喜寿に付朱の大木盃を受納せられこれまで懇ろな謝辞を述べられる。又古木保存会の会長をして居られる、宇土芳郎氏は都市計画や道路新設等に依り永い年月を経た銘樹が無残に切り倒されたり、公害に依る古木が立枯れになる等の現状を大に嘆かれ、之が保衛に孤軍奮闘の御話に一同大に感銘を深める。なお田子、鈴木丸衛氏の御長寿を寿ぐため観世流謡曲の名手松井竹代夫人は鞍馬天狗の一節を誦われその朗々のひびきは堂に満ち新春の雰囲気漂う。

その後鈴木氏の戴れた銀盃が廻わされ一同これにあやかるよう拝見する。近藤光匡氏が祖父正太郎

れになったことをお詫び申し上げます。二月三十日野崎金次郎氏を加えていない関係上会員の方に年賀と暑中見舞広告を御願ひしておりまして事前誤解があつてはと、無掲載の幹事一同からは広告料を従来通り納入して頂きました。

物故者はたつみ二十六号哀悼録 (五十二年一月十八日) (文責編者)

辰巳会例会名簿

昭和三十二年一月十八日 生田神社会館

川口 一秀	高畑 誠一	高畑 千真	高畑 千彦	高畑 千吉	高畑 千一	高畑 千二	高畑 千三	高畑 千四	高畑 千五	高畑 千六	高畑 千七	高畑 千八	高畑 千九	高畑 千十	高畑 千十一	高畑 千十二	高畑 千十三	高畑 千十四	高畑 千十五	高畑 千十六	高畑 千十七	高畑 千十八	高畑 千十九	高畑 千二十
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

計 六六名

昭和五十二年五月十二日

鈴木商店回顧五十年 全国大会賛助者芳名

(順序不同、敬称略)

- 日商岩井(株) 神戶製鋼所(株) 帝陽人(株) 太陽鋳工(株) 日本発条(株) 日発販売(株) 横濱機工(株) トーンプラ(株) 石川島播磨(株) 日協商事(株) 米星煙草貿易(株) 富士化工(株) 中央毛織(株) 日豊年製油(株) 日本精化(株) 東邦金属(株) 新日本金属化学(株) 鈴木薄荷(株) 三浦平治(株) 松本通(株) 日輪ゴム工業(株)

会務報告

小倉五郎

鈴木商店の回顧五十年を記念致しまして辰巳会全国大会をこの国立京都国際会館で開催出来ました事は洵に感慨無量御同慶の至りと存ずる次第であります。本日の大会の決定に当りましては、新条例会以後会場の選定に苦慮致しておりました折柄、柳田幹事血縁の京都商工会議所副会頭山川常七さん(山川石油社長)から当館を御紹介御斡旋頂きました。特に本日は公私御多忙にも拘わらず御臨席下さいました事を最も光榮と存じ併せて厚く御礼申し上げます。次に本日の出席数は本部関係一三三名、東京支部四五名、北海道支部三名、中部支部一名、四国支部七名、九州支部一名、計二二〇名にゲストを入れますと二二七名



の多数に昇りました。ゲストとして本会ゆかりの御芳名は京都商議副会頭山川常七氏、神戸大学桂芳男先生、同志社大学安岡重明先生、松方金子物語著者藤本光城先生、神戸新聞社経済部来住邦男氏、日本経済新聞経済部来住邦男氏であります。 茲で想いを新に致しますことは、去る昭和三十七年四月二日の全国大会の第一回南禅寺荷有荘の際の出席人員は三〇五名でありましたが、歳月を重ねた十五年の歩みの中にその差一〇〇名を生じたこと何かを物語っているかと泌々と胸に迫まる思いが致します。願くは来る歳の全国大会に例会には欠かすことなく多数の御来会を切に祈る次第です。特にこの上ながらの御健康に御留意下さい。 処で最近紙上等に鈴木商店に関する記事とか神戸経済歴史展等社会を賑わす事が続出されております。その一つには皆さん既に御承知の通り昨年七月一日以降を重なること二四回神戸新聞に連載されました「海鳴りやまず」神戸経済人の一世紀第一部が愈々来る七月下旬上梓されることになりました。これは兵庫県下各書店が取り扱うこととなります。定価は一、六〇〇円です。何れも我々の

想出の記事ばかりです。是非御子孫の爲にも座右におかれませうお勧め致します。又、県外の会員の方に就いては支部とも計り御世話の方法を考えたいと考えます。尚、この海鳴りやまずが偶然にも今日の朝刊から第二部が始まっています。之亦御愛読下さるようにな…… 次に行く四月より日本経済新聞夕刊に「関西経済春秋風雪」の稿にも鈴木の記事が連載されつつあります。 尚、去る四月八日より鈴木商店の資料が重点となっている市立中小企業センター主催の「神戸市経済歴史展」が来年三月迄、唯今神戸港を一望するセンタビル十五階にて開催されております。御通り合わせの節には是非御参観下さいますよう御勧め致します。会期中は日曜日祭日は休業、土曜日は午前中だけであります。御参考までに申し上げます。 最後に去る二月二十一日以降の物故者名を御報告し謹んで哀悼の意を表します。 小林一水(二三年前)、南文枝(五一・一〇)、森田金治郎(五一・一二・二二)、広岡一男(五一・二一・一八)、滝上弁二(五一・三〇)、松岡福吉(二・七)、鈴木

(23) 頁よりつづく

作吟詠に今日の喜びを讃え会員に御健康を切に祈り再会の日を迎えて……一期一会初夏の日長を浴びつづけて家路を急がれる諸兄の後姿のいと尊く思わず合掌の誠を捧げて見送ったことであつた。(五一・五・一二編)

嘉邦(二・八)、河合一男(二・一)、高教一(三・九)、鈴木正(三・一八)、山岡弥之助(三・二二)、土居楠巳(四・五)、庄司雅一(四・一)、宮三(四・三)、三〇、国沢敏馬(五・七)以上十五名の方々であります。その以前の霊位を併せますと一、〇七七名と算されます。転た寂寞の感に堪えませんが、この事に就きましては大会に魁がけ去る四月二十八日篠原・祥竜等に於きまして本部幹事の他、西川東京支部長参列の上菅和尚の道師に依つてしめやかに供養塔入魂慰霊法要を相営みまして之をもちまして会務報告を終らせて頂きます。 御静聴有難う御座いました。

鈴木商店回顧五十年辰巳会全国大会

昭和五十二年五月十二日 於 国立京都国際会館

Table listing names of attendees and sponsors, organized by region (e.g., 御来賓, 山本, 藤本, 鈴木, etc.)

〈来信〉

先般御懐かしい記事の掲載された会誌を御送り下され感無量ものが御座いました。続いて今回の回顧五十年の記念写真を賜り重ね重ね有難う御座いました。私は当時は未だ駆け出しの者で社内の様子はよく存じませんでした。西倉庫で日野俊夫さん貴兄と会社創立者の二世殿に親しく御教示を賜り本間に仕合わせと存じて居りました。ところが二十七年頃「財界太平洋」が刊行され、戦争成金の花形鈴木商店が詳しく紹介され、金子さんの二丈一尺の手紙、船鉄交換外交、焼打事件、金子さんの首に懸賞金、この事件は鈴木が政府の命を受けて米の需給に全力を傾けている最中、朝日新聞や期米市場買方の悪宣伝に基因する事、新事業の数々の開発(神戸製鋼、帝国人絹等)鈴木商店と台銀騒動、コール市場に於ける三井と台銀の駆引、震興手形補償法案審理中に起きた秘密会議の漏洩事件、銀行取付、鈴木商店と台銀の袂別即破産。しかも台銀が鈴木担保整理で一億円を稼いだ(二十六、